

モウセンゴケ

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



繁殖地

小学生のころ、伊勢神社を通過して帰るときに写真の植物をよく目にするものでした。

昨年、熊毛地区文化財保護審議会の場で「モウセンゴケが生えている場所は知らないか」との質問がありました。繁殖地が減ってきているらしいのです。

気になりましたので、伊勢神社の近くのモウセンゴケを調べてみました。

湿り気のある日陰で、しかもやせた土壤で繁殖するそうです。確かに、ここは成高山の頂上で雨が降るとこの辺り一帯には雨が滴り落ちてきます。そのうえ北面ですので直射日光を受けません。



駐車場

特長

伊勢神社駐車場の道路側の土手は高さ2mから下の地肌（→右写真）横幅30mほどにわたって、これが見られます。

一株は葉の直径3～4cmほどと小さい。葉の先からしずくのような消化液を含むネバネバの粘液が出て、甘い匂いで小さな虫をおびき寄せ、とらえた虫を溶かして養分を吸い取ります。

花言葉「あなたにささげる恋の歌」

歌に聞きほれて、ふらふらと立ち寄ったが最後、そこから逃れるすべはないのです。



春～生長・開花・受粉・結実

夏～暑さがやや苦手。弱るが枯れることはない。

食虫植物とはいえ、主な養分は土壤から受け取ります。捕まえた虫からの養分は、言わばサプリメント（健康維持食品）程度だそうです。

<参考；「華のいわや」 「BOTANICA」>

ピンク色で可憐な花びらなのに、食虫植物という特性を隠し持っているのです。

秋～持ち直す。

冬～固い冬芽で冬をしのぐ。

豊かな土壤では生存競争に負けてしまうので、自ら日陰で痩せた土地を探してそこで繁殖するというひかえめな性格はどこか人間くささもあります。が、足りない養分を小型の昆虫から吸い取るなどという技は逆境に負けないしたたかさを持っているとも言えます。調べるほどに可愛いモウセンゴケでした。繁殖活動を維持する環境を整えていく必要があります。